

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1070201155		
法人名	株式会社あじさい		
事業所名	グループホームあじさい		
所在地	高崎市石原町2348-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成28年12月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>道路清掃に利用者様も参加されご近所の方たちとの世間話に参加されたり、すぐ近くのGHや吉井のGHをお花見やあじさい祭り、また神楽舞奉納に招待しご利用者様同士の交流を図っている。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>運営推進会議は定期的開催されており、毎回多くの家族(6~9名)が出席している。毎回テーマを決め、運営や状況報告等がなされているので、家族には事業所の情報が適切に公開されている。また、車いすを移動の手段と捉え、テーブル席では椅子に座り替える支援を実践しており、利用者にとっては楽な姿勢で寛ぐことや、適切な姿勢で食事ができることになり、安心で安全な生活支援に繋がっている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で共有し職員会議や目標に連動して日々のケアに実践できるよう取り組んでいる。特に新しい入職者には初日のオリエンテーションで理念の説明をしている。	利用者への接し方や言葉使いは理念の項目に照らし合わせながら支援に活かしている。事業所の支援方法として、利用者には馴れ馴れしくしないように、尊厳等を理念に沿って教えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	護国神社へ初詣・琴平神社へ達磨市・市駐車場下で花火見物・万灯会见物は年中行事になっている。今年度は町内の班長を引受けて会議にも参加、広報を配りながら話し、道路清掃には利用者様も参加された。	地域のお祭りや行事に参加している。日常的には散歩や地域の役員を引き受け、近隣の方々と挨拶を交わしながら関係を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅介護者に見学に来て頂いたり、親が認知症ではないかと悩む方の相談相手になり、情報を提供している。また、福祉用具(障害者用スプーン)を必要としている方にプレゼントしたり、業者を紹介するなど協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。近況報告や意見交換、行政からのアドバイスを頂いている。今年度は連携している病院も参加頂いた。	定期的開催され、家族・病院のソーシャルワーカー・市の関係者が出席して、玄関の施錠に関することや災害対策、外部評価結果について話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加頂き助言をいただいている。また生活保護者の受け入れをしているため行政とは連絡を取り合っている	行政の関係各課に定期的や必要時に管理者が出向き、書類の手続きや報告、相談等を行い、連携を図っている。介護保険の更新代行にも出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の研修にはそれぞれの職員が交代で参加している。近年の事件と新しい利用者様の特性から施錠をご家族全員から希望され、現在玄関のみ施錠の状態にある	玄関は外に出ていく利用者もおり、家族の希望もあって今は施錠している。車いすを移動の手段と考え、テーブルでは椅子に座り替えることで利用者にとって楽な態勢を確保している。	自力で外に出られない利用者の心情等を察しながら身体拘束をしないケアに取り組んでほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受けたものは職員会議で報告し虐待に対する理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に必要と思われる方には制度をお知らせしている、生活保護者には日常生活自立支援事業を利用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の都合の良い時間にあわせて書面を全て一緒に確認している。面会時にもコミュニケーションを図りふあんや疑問がないか伺うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。外部にも苦情処理機関があることを契約時にも説明している。利用者様からはその時その時に要望を聞いているが昼食と一緒に食べながら気楽に話を伺っている。	日常のバイタル結果を知りたいという希望や嗜好品の希望等反映させている。家族の希望と本人の希望の違いには本人本位で希望に添えるように調整することもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見交換をし、全員で討議できる機会を設けている。皆さんの前で話すことが苦手な人もいるので紙に書いて提出もして貰っている。	勉強会時に職員が意見を言いやすい雰囲気を作っている。担当制をしき状態の変化や居室の環境整備、衣類の整理等、意見を聞き反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状態を評価し、賞与に反映させている。また国家試験などの受験を勧め受験対策本を進呈したり、勉強会をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の成長の度合いや希望に応じて外部研修を受けてもらったり、担当や課題に取り組むことで成長を促している。また、無資格者には費用を会社が負担して初任者研修や認知症基礎研修をうけてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH大会には毎回参加させて貰っている、同業者の実績や取り組みはとても勉強になり、アイディアは利用させて貰っている。また、運営推進会議にも同業者に参加いただく事で他のGHの話も聞かせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ入居前に来ていただくか、見学に足を運んで頂きコミュニケーションを図るようにしている。初期の情報はサマリーや申し送りノートで共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約時に今までの状況やこれからどのように過ごして欲しいのかよく話を伺い職員間で情報を共有し、ご家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話での問い合わせでも、見学に来られた場合でも必要な情報を伝えている。手作りではあるがパンフレットも手渡している。要望があれば郵送もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、洗濯、創作物、買い物などを一緒にいってお礼を言う関係性が出来ている。季節の行事や歌等を教えて頂きながら共に楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況を一緒に喜び一緒に心配している。主治医の指示は報告し今後のことは相談しながら変化に対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が面会し易いよう働きかけたり、ご本人が電話をかけたい時にかけたり、毎月来てくださるボランティアの方と信頼関係を築くところに行っている。夏祭りには浴衣を着ている。友人・親類の訪問や野菜の下ごしらえを手伝ってもらい得意分野を活かしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おはぎや団子作り、コロッセなどを作る時は男性にも参加して頂く。お茶やおやつの間は全員ホールに集まって召し上がる習慣ができています。相性の問題もあるので職員が間に入って支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も病院に見舞いに行ったり通夜や葬式にも参列させて頂いている。今年は一昨年に退去になった利用者様の御家族様の相談に乗ったり新しい主治医にあじさいでの生活を説明した。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好きな時に好きな事をして頂きその方の暮らし方を尊重している。意思疎通が困難な方にはご家族と話し合いケアの方向を決めている。	利用者からは、日常会話の中から及び行動や顔の表情等から意向を推察している。家族の希望等については、面会時や運営推進会議時等で確認し、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	真夏でも懷巻を手放せない方や暖房中でも手袋をする方など、熱中症や怪我に注意を払いながら対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	決まった時間に訪問マッサージが来られる方や決まった時間に歩行運動される方、下肢浮腫が著しい方には午前や午後ベッドで休んで頂くなど対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス以外でも職員のモニタリングを紙で提出してもらって情報を収集した上で主治医やご家族に相談して計画している。	担当職員が「モニタリング報告書」に記載し、全職員の意見を参考に月1回のモニタリングを実施している。3カ月毎に再アセスメントと介護計画及び状態変化時には随時の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別生活シートに記録しているが毎月ご家族宛に担当職員が生活のご様子を書いてお送りするものにも職員間で確認し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の要望により買い物に行ったりドライブに出掛けたり外食に行ったりビールを飲んだりしている。時には通院や薬局で処方して頂く支援もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練や心肺蘇生の勉強会を消防署の指導の下定期的に行っている。また、民謡・映画・尺八・手品・南京玉すだれ等の芸能訪問も定期的により利用者様も楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にご家族の希望するかかりつけ医を伺い往診のお願いに行き定期的に往診に来ていただいている。耳鼻科・眼科・整形外科などの科には受診支援をしている。	入居時にかかりつけ医の継続か3ヶ所の協力医に変更できることを説明している。協力医による2週間に1回往診がある。緊急時にはかかりつけ医の指示による申し合わせが整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師に来て頂き、難しい爪切りや摘便、体調の変化を見て頂いている。指導、アドバイスを受けた時は申し送りやノートで情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診時に症状モニタリングを書き込んだカードを主治医に渡したり、口頭だったりするが、日常の様子や変化を伝えている。入院になった場合には見舞いに行ったり、入院先のDrから状況を伺ったり退院時の注意点を指導して頂いたり関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての対応方針を入居時に書面にて説明し、ご家族の考え方を伺っている。状況が変化する毎にご家族と主治医、職員と方針を確認し情報を共有している。	事例があり、医療連携契約で緊急時の対応・処置の仕方の指導を受けている。利用者や家族には段階に応じて気持ちを聞いている。希望があり関係者の協力が得られれば支援する方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAEDの使用法、応急手当の訓練は消防署の指導の下毎年行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯と夜勤帯に分けて職員と2階の住人の協力体制訓練を行っている。	28年6月消防署の立会いの下、利用者と職員が参加した総合訓練、28年12月に自主訓練、28年12月に消防署の指導の下救急救命講習会を実施した。備蓄として食料と水、排泄用品を用意している。	非常事態に備え、利用者と職員が避難技術を身に付けられるように自主訓練の回数を重ね記録を残してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の性格や言葉使いに応じた対応をし、トイレ誘導の言葉のかけ方やシーツ交換など入室時に許可を得るなど尊厳やプライバシーに対して配慮している。	日常的に本人の気持ちを聞き時間をかけて納得してもらってから行動に移すことを心がけている。食事時間や場所等気持ちに沿って支援し、異性介助にはその都度確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々お茶の時間やおやつのは飲みたいものやおやつを選んで頂いている。外出に出掛けた時は何を食べようか悩む楽しみも味わって頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝ゆっくり起床される方、夕食が済めば即刻ベッドに向かう方、寝る前の屋内歩行練習をしないと眠れないと仰る方など、それぞれの希望に沿って生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容院に来て頂いている。顔に血管腫がある方の化粧介助も行っているが、女性方で化粧をしあって鏡をのぞきあうこともある。外出時には普段と違うおしゃれの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのメニューを伺って決めたり台所に入って調理を手伝って頂いたり、ホールソファにてジャガイモの皮むきなどお願いすることも。栗ご飯の栗や吊るし柿作りは手もおしゃべりも忙しくなられる。	何が食べたいか聞き、材料を買いに出かけ職員が作って一緒に食べている。季節ごとの行事食や風習等教えてもらいながら一緒に行い、継続的に支援している。飲み物はメニューで選択できる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は運動量、体質、医師の指示などで個別対応している。バランスを考慮しカロリー計算をし食事量、水分量を個々に記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は航空ケア声掛けをし出来ない方には介助し清潔を保つようにしている。ご自身の習慣にも配慮し強制にならない様にしている。就寝時には義歯を預り消毒剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心や環境に配慮した声掛けや誘導により出来るだけトイレでの排泄を支援している。自立・紙パンツとパット・車いす対応など個別対応し不快な時間が長ならないよう誘導している。	トイレでの排泄を基本に、チェック表を参考に、定時や食事の前後、ポータブルトイレ使用等で個別の支援をしている。夜間は巡視時や4時間空くと声をかける等自立に向けた支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面からは繊維質の多い野菜を召し上がって頂くため、1食1人100g以上使用する事とし工夫している。水分にも気を配り飲水量を記録し便秘を予防するなどの支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否の方には無理強いせず、午前に入っても午後でも希望があれば対応している。拒否が強い方は職員が情報を持ち寄って「排便を済ませてから」「その方の自慢の話をする」など様々な工夫をしている。	週に3日、午前9時から午後4時の間で全員の入浴支援をしている。一日に2回入浴する人もいるが、入浴日は固定されている。	入浴日を決めずに希望等に添った個別の入浴支援ができるよう、工夫や努力をしてほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にはご自分が大切にしたい物を飾ったりテレビを置いたりしている。自分の居場所を決めておられるようでのんびりソファでうたた寝される方が多い		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日常の記録やモニタリングを主治医に伝え内服薬の相談をさせて頂いている。特に認知症の薬に関しては細かなモニタリングを報告し薬の調整をさせて頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯後ご自分の衣類を居室に干して頂いたり、乾いた洗濯物を畳んで頂いたり、創作物を作ったり、歌が自慢の方は歌詞を用意すると皆さんを先導して歌って下さる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	護国神社へ初詣、琴平神社の達磨市、白衣観音の万灯会、夜桜見物、高崎花火見物、イルミネーション見物、書道展、絵画展、等などあらゆるジャンルにでかけている。混雑の中では地域の方に誘導などご協力頂いたり、催し物にお知らせや招待を頂いている。	日常的に散歩に出かけ、地域の方々と触れ合う楽しみもある。デッキに出て風や陽にあたることできる。個別の買い物・季節の行事、地域の観光、ドライブや花見に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の状態に合わせて自己管理の方、あじさいで立替の方、お財布を預かっている方など対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時間に電話を使っていたりしている。新聞広告の品物を電話で注文される方もいる。季節のハガキを出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにはお雛様や七夕飾りといったように季節の飾りを皆さんと一緒に作り、思い出話を伺ったり、普段の写真や掲示したり、季節の花を活け利用者が管理して下さっている。トイレの匂いには気をつけてこまめに掃除をするようにしている。	デッキやテーブル席から高崎の街が一望できる。桜をはじめ季節の花や紅葉が居ながらにして楽しめる。季節の飾りものや手作りカレンダーが飾られ、廊下では歩行を楽しんでいる。不快な臭いは無い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとつのソファにいつも一緒に座って一枚のひざ掛けを三人で掛けてお話をさせてもらったり、しゃる方達やテレビが大好きな方、昼食後は居室でお昼寝の方など思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの習慣や身体機能からベッドの高さに注意している。きちんと整理される方や、テレビを置かれる方、花を飾りたい方など、居室は自由にお使い頂いている。掃除の時に物を移動させて頂くが必ず元の場所に戻すようにしている。	居室から見える景色でも季節を感じる事ができる。家族の写真や洋服、人形やぬいぐるみが持ち込まれ、洗面用具や化粧品等が置かれている。各居室にはその人らしさが溢れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており玄関はスロープが設置されている。廊下には手すりが設置されており歩行に不安がある方にも利用して頂いている。車椅子に座って足を動かさず移動をされる方やシルバーカー使用の方など残存機能保持に努めている。		